

# まつど地域活躍塾 2018

## 第2期報告書

松戸をより暮らしやすいまちにするために、  
町会・自治会、NPO、ボランティア団体など、  
地域で活躍する人材を育成する塾です。



## まつど地域活躍塾について

平成27年度に実施したアンケート調査によると、市民の約6割が、市民活動に対し「人や社会のために役立つ活動」というイメージを持ち、約4割が、今後「ぜひ、参加したい」または「機会があれば参加したい」と考えています。しかし、実際に市民活動に参加する市民の割合は、約14%と少ない状況です。一方、町会・自治会やNPOなどの団体は、構成員の高齢化や後継者不足など、人材不足に関する課題を抱えています。

市民一人ひとりが、地域社会の構成員としての当事者意識を持ち、自らの経験やノウハウ等が社会に貢献できるということに気づき、実際の活動に繋げるためのきっかけや機会を提供し、市民活動に参加しやすい環境を整備することが求められています。

そこで、市は、協働によるまちづくりを推進するため、市民が市民活動に参加するうえで、必要な知識や技能を身に付け、地域に貢献する人材を養成する「（仮称）まつど市民大学」の調査・研究を進めてきました。

「（仮称）まつど市民大学」の設立に向けて、幅広い視点から意見を交換し、（仮称）まつど市民大学の方向性等について検討していただくため、学識経験者、市民、関係団体、市職員から構成する「（仮称）まつど市民大学設立準備懇談会」を、平成28年7月から10月までに3回開催しました。

2年の準備期間を経て、修了生に地域で活躍してほしいという願いをこめて名称を「まつど地域活躍塾」とし、平成29年6月に第1期を開講し、33名が入塾し、29名が修了しました。平成30年7月に新たな塾生を迎えて第2期を開講しました。



## 第2期（平成30年度）の概要

### 受講生について

男女比	男性：21名、女性：10名 計31名
年齢構成	20代：1名／30代：2名／40代：7名／ 50代：2名／60代：13名／70代：6名
区分	松戸市在住：29名、在勤：1名、在学：1名
活動履歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都内に通勤していたため、地元のことは無頓着で過ごしていた。これといった市民活動はしていない。</li> <li>・町会、自治会活動に少し関わったことがあるが、お手伝い程度しかしたことがなかった。</li> <li>・NPO法人で活動してきたが、自宅がある松戸市内での活動をあまり知らないため、勉強して、参加や連携をしたい。</li> <li>・市内で子育て支援の活動をしているが、今後さらに活動の幅を広げるために参加した。</li> <li>・千葉県生涯大学校などの生涯学習講座に参加して、自己研鑽をしている。</li> </ul> <p>※市民活動団体、町会・自治会、ボランティア活動の経験がある方、活動中の方にも多数受講いただきました。</p>
まつど地域活躍塾で学び、実践したいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ具体的な活動はイメージ出来ていないが、松戸のことを学び、社会や地域のお役に立てる活動に参加したい。</li> <li>・シニア世代の健康増進に寄与する健康体操などの活動を始めたい。</li> <li>・教員生活で得た経験を活かして、子ども達や子育てを支援する活動に参加したい。</li> <li>・これまでNPO活動で得た知見を活かし、また地域活動で得た知見をNPO活動に還元しながら、松戸を暖かい社会にしていきたい。</li> <li>・松戸の産業や観光などの資源を活かして、松戸をPRするような活動に参加したい。そのために松戸のことをもっと知りたい。</li> </ul>

※人数等は開講時点のもの。活動履歴、学びたいこと、実践したいことは申込書及びレポートから抜粋。

## 第2期（平成30年度）の概要

### 年間スケジュール

	日 時	内 容
講 義	7月6日（金）	●入塾式 ●公開講座「地域社会の変化と市民主体のコミュニティ活動 ～自分ごとから生まれる新たな価値創造～」
	7月13日（金）	●講義「地域で活躍するはじめの一步 ～松戸の地図から地域特性を学ぶ～」
	7月20日（金）	●講義「先輩に聞く！ はじめたキッカケから活動を楽しむポイント」
	7月27日（金）	●講義「地域に密着した活動で住民を巻き込むコツ」
	8月3日（金）	●講義「市民の想いと地域をつなぐコーディネーターの役割」
	8月10日（金）	●講義「子どもの貧困・社会的孤立に向き合い、 支える地域の力とは？」
	8月24日（金）	●講義「地域福祉って何？ 実は身近にある社協や民生委員の活動」
ワ ー ク シ ョ ッ プ	8月31日（金）	●ワークショップ
	9月7日（金）	「シニアが活躍して、いつまでも元気に暮らせるまちづくり」
	9月28日（金）	●ワークショップ
実 地 体 験	10月5日（金）	「急増する空き家を利活用した地域のつながりづくり」
	10月15日（日）	●実地体験オリエンテーション ～受け入れ団体とのマッチングの会～
	10月中旬 ～12月中旬	●現場から選んで学べる！実地体験
ま と め	12月16日（日）	●実地体験ふりかえりの会＆報告会
	1月11日（金）	●修了後の活動につなげる①「ふりかえりワークショップ」
	1月25日（金）	●修了後の活動につなげる②「個別相談会」
	2月15日（金）	●修了式

※当該事業の企画運営に当たっては、特定非営利活動法人まつどNPO協議会とコーディネート業務委託契約を締結し、共に実施しました。

## 入塾式・公開講座

### 7/6 入塾式

塾生同士、塾生と事務局の初顔合わせの会ということで、市民部長から塾生に対して挨拶を行い、まつど地域活躍塾のねらい等の説明を行うとともに、塾生同士の交流時間を設けました。



入塾式の様子

### 7/6 公開講座

第2期まつど地域活躍塾の初回講義を公開講座として実施しました。

#### 塾生代表者宣誓

塾生を代表して、2名の方に受講のきっかけや抱負について宣誓というかたちで語っていただきました。



#### 基調講演

千葉大学大学院社会科学研究院教授清水洋行氏に、「地域社会の変化と市民主

体のコミュニティ活動」というテーマで公開講座の基調講演をいただき、ゲストとして老人給食協力会ふきのとう代表の平野覚治氏に登壇いただき、子ども食堂の活動についてお話しいただきました。

最後に本日の講演のまとめとして、登壇者をパネラーとしてパネルトークを行いました。



清水氏

平野氏

パネルトーク



#### アンケートから

- 「市民活動は出会い」「地域への入口」「仲間」「場をつくる」「経験の貧困」という言葉が印象に残った。
- 子ども食堂は横のつながりも含めて可能性が多くあると思いました。
- 自分の活動について整理が出来た。

# 講義

7/13

## 地域で活躍するはじめての一步

聖徳大学児童学部児童学科教授長江曜子氏に、松戸市ガイドマップを活用して、市内を5つの地区に分け、各地区の特徴や歴史的背景をもとに、それぞれで行われている市民活動や隠れた名産品などの話を盛り込みながら、これから発展するであろう各地区での活動についてお話しいただきました。



長江氏

## 7/20 先輩に聞く！はじめたキッカケから活動を楽しむポイント

市民活動を行っている方をゲストに招き、現在の活動内容と、自身が活動を始めたキッカケなどをお話しいただきました。関さんの森を育む会の黒岩氏、NPO法人松戸くらしの助っ人の梅田氏、NPO法人Mama Canの山田氏、第1期まつど地域活躍塾修了生にゲストとしてお越しいただきました。



黒岩氏、梅田氏

山田氏

講義後のグループワークでは、各班にゲストの方々に入っていただき、塾生からの疑問・質問等に直接お答えいただきました。



グループワーク

## 7/27 地域に密着した活動で住民を巻き込むコツ

市民自治課職員から上記テーマで、町会・自治会など地縁団体について講義を行い、その後、岩瀬自治会からは自治会独自で行っている文化祭などの3大祭りの話や、他団体と一緒に実施しているラストサマーフェス&盆踊りなどについてお話しいただき、五番街ふれあいセンターからは、カレーを食べる会や男の談話室などの地域に密着した活動についてお話しいただきました。



神田氏

五番街ふれあいセンター

## 講義

### 8/3 市民の想いと地域をつなぐコーディネーターの役割

まつど市民活動  
サポートセンター長  
の阿部氏から、N P  
Oとはそもそもどのよ



阿部氏

うな団体なのか、市民活動が盛んに行われるようになった時代背景、松戸市内の現状を紹介しながら、サポートセンターの機能や活動紹介を交えながら、コーディネーターの役割について説明しました。

後半は自分が取り組みたい活動のスタイル



ワークの様子

や、3年後に理想とする暮らしのあり方を書き出すワークを行い、全体で共有しました。

#### アンケートから

- N P Oや市民活動の基礎知識と、コーディネーターの役割について分かりやすい講義でした。
- 塾生同士で個々人の3年後の目標を共有することができたことがとても良かった。

### 8/10 子どもの貧困・社会的孤立に向き合い、支える地域の力とは？

子ども家庭相談課子どもの未来応援担当室職員から昨年度に実施した子育て世帯生活実態調査の調査概要に基づき、市内の子

どもの貧困状況や、市が行う事業について説明しました。

こがねはら子ども食堂の高橋代表



高橋氏と担当室職員

からは、自身の行っている子ども食堂の活動について、実体験や事例を交えながらお話しいたしました。

### 8/24 地域福祉って何？実は身近にある社協や民生委員の活動

松戸市社会福祉協議会の職員から、協議会の目的や事業内容等の基本的な情報をお話しいたしました。

六実六高台地区社会福祉協議会の澁谷副会長からは地区社会福祉協議会の基本情報や、自身の地区で行っている事業（ふれあい会食会等）をご紹介いただきました。松戸市北部地区民生委員・児童委員協議会の小野会長には、民生委員・児童委員の基本的な情報や、具体的な活動内容についてお話しいたしました。



松戸市社会福祉協議会職員



澁谷氏



小野氏

## ワークショップ

「シニアが活躍して、いつまでも元気に暮らせるまちづくり」

8/31 講義

高齢者支援課職員から松戸市が目指している地域共生社会について説明し、それを実現するための事業としての松戸プロジェクト・地域ケア会議・元気応援くらぶなどについて具体的な事例を交えてお話ししました。



高齢者支援課職員

9/7 ワークショップ

各グループメンバーの「やりたいこと」「できること」を書き出し、それを元に、取り組むアイデアを1つに絞り、各メンバーのできることを活かしながら、「5W1H」に基づいた具体的なプランに落とし込み、最後に全体で発表しました。



ワークショップ



発表

### アイデア抜粋

- ◆子どもから高齢者まで世代を超えた居場所の提供。
- ◆日常の困りごとを地域で解決するためのなんでも相談所の設置。

「急増する空き家を活用した地域のつながりづくり」

9/28 講義

空き家の現状や、そもそも空き家とはどういった建物のことをいうのかについてや、松戸市で行っている対策について、住宅政策課職員から説明し、併せて、松戸市内の空き家の活用事例について紹介しました。



住宅政策課職員

10/5 ワークショップ

3つの空き家の例のなかから、自分が活用できると思う空き家を1軒選び、同じ空き家を選択した人達とグループを組み、事業計画を考えました。資金面も含めてプランを検討することで、これまで大まかに考えていたプランを実践に移すために必要な様々な観点を体感していただきました。

最後に、各班5分程で発表を行いました。



発表

### アイデア抜粋

- ◆子どもの学習支援のための寺子屋
- ◆不用品を回収して、利用したい人へ繋ぐ、リサイクルの場
- ◆若者支援のための居住スペース
- ◆民泊



# 実地体験

## 10/15 オリエンテーション ~受け入れ団体のとのマッチングの会~

実地体験に行くうえでの心構えや注意点の共有を行い、その後、実地体験受入団体すべてから、実際に体験してもらう内容を1分間ずつ説明していただきました。説明を聞いた後で、各自興味のある団体と直接体験に行く日程等を調整しました。



受入団体からの説明の様子



各自で受入団体とマッチング



## 10~12月 実地体験

塾生と一般参加者は、日程調整をした受入団体のもとで、各自実地体験をしました。



イベント受付などのお手伝い

里山保全活動への参加



子ども食堂などのお手伝い



## 実地体験

### アンケートから

- 市内でこのような学習支援をしていることに気が付かなかった。近所なのでお手伝いを継続したい。
- 映画の上映等、誰でも気軽に参加できる活動がとても良いと思った。
- 岩瀬自治会さんはまだまだ楽しいイベントがあると思うので、今後もお手伝いさせていただきたい。
- 楽しんで活動することも大切なことなのだと感じました。
- 人とのつながりや参加者と受け入れ側の関わり方、声のかけ方などが参考になりました。
- 肩に力を入れず。

### 12/16 ふりかえりの会&報告会

ワールドカフェ形式で代わる代わるグループワークを行い、自身の体験した活動内容を共有しました。最後に全体での共有を行い、改めて今後に向けての各自の方針を深め、話し合いました。

### アンケートから

- 自分が行かなかった団体での話がとても参考になり、刺激的だった。
- 同じ団体に参加した方でも、実に多様な感想があり、なるほど！と思う部分が大きかった。

- グループが代わる度に多くの学びがあり楽しかった。

### 実地体験受入団体（順不同）

1	岩瀬自治会
2	MEP（新松戸みんなの食堂）
3	認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会
4	小金原連合町会 防災部
5	こがねはら子ども食堂（よっけ塾）
6	NPO 法人子育て広場ほわほわ
7	NPO 法人子どもっとまつど
8	NPO 法人 子どもの環境を守る会 Jワールド
9	五番街ふれあいセンター
10	NPO 法人さわやか福祉の会 松戸くらしの助っ人
11	NPO 法人人材パワーアップセンター「わくわくストレッチクラブ」
12	NPO 法人スマイルクラブ
13	関さんの森を育む会
14	NPO 法人宅配給食すずな
15	NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど
16	ばそこん 119
17	はなしまみんなでごはん
18	ボランティア花水木の会
19	社会福祉法人まつかぜの会 豆のちから
20	松戸里やま応援団
21	NPO 法人 MamaCan
22	六実六高台地区社会福祉協議会
23	要約筆記サークルこぼん
24	NPO 法人まつど NPO 協議会

# フォロー・修了式

## 1/11 修了後の活動につなげる 『ふりかえりワークショップ』

これまでの塾での体験をふりかえり、改めて、これから個々人でやりたいことを「未来志向」で考えたり、塾生同士で話をしました。本塾の第1期修了生3名にも来ていただき、塾生の思考の整理や先輩として助言をしていただきました。



塾生同士のふりかえりの様子

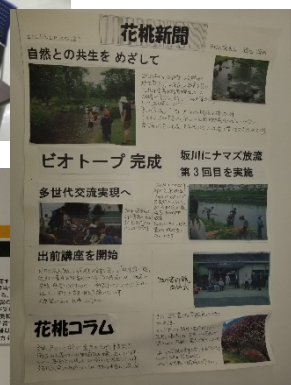
## 1/25 修了後の活動につなげる 『個別相談会』

各自で「じぶん未来新聞※」の作成や、作成に向けて塾生同士でのディスカッションを進める間に、各塾生1人10分程度で事務局との個別相談会を実施しました。

※「じぶん未来新聞」とは、新聞形式で未来に焦点をあてた内容を書くことで、将来の理想・ありたい姿等を描くためのワークです。



個別相談会の様子



「じぶん未来新聞」

## 2/15 修了式

市民部長から修了証書を授与し、塾生代表による抱負発表、塾生全員による「じぶん未来新聞」発表を行いました。



修了証書授与



塾生の抱負発表



「じぶん未来新聞」発表

### アンケートから

- 自分の考えていることの棚卸ができたので、よい時間になりました。
- 未来新聞は夢があり、これからの活動の指標となり、良い企画だと思います。これからの自分の活動計画を立てることは、より実践につながると思いました。
- 現実とのギャップに気づき、より現実的にする必要性を感じました。

# 資料編

## <受講案内パンフレット>

まつど  
地域活躍塾  
2018

2018  
7/6金  
START!

第2期生、募集。

作ってもらう人より  
創ってゆく人の方が  
絶対に楽しい。

求む、  
松戸の暮らしをつくる人。

松戸市

### 「暮らしづくり」は「まちづくり」につながっていく。

松戸には48万を超える「人」が暮らしています。その一人ひとりに人生があって、たくさんの経験や特技があるはず。一人の力で街の課題を解決したり、魅力あふれる街にするのは難しいけれど、それぞれの力を持ち寄れば、身の回りの暮らしをより良く変えていくことができる。暮らしをつくることは、街をつくることにつながっていく。だから 求む、松戸をつくる人。



#### 市長メッセージ

わが国における少子高齢化の進展は、本市においても深刻なものであります。また、まちづくりの担い手である若年層・中高年層の減少も懸念されています。一方で、本市には仕事や学業等で培った高い専門性を持つ市民の方がたくさんいらっしゃいます。そのような方々にまつど地域活躍塾へ入塾いただき、松戸という地域の現状や課題をもっと知り、地域で課題解決のために活躍していただく。平成29年度から本塾を開始いたしました。ご自身に合ったテーマ（取り組むべき課題）を市内で見つけ、様々な場でご活躍されることを願っております。

松戸市長 本郷 健次

#### 本塾のポイント

- ①地域活動の全体像が見える！  
次ページのカリキュラムをご覧ください。約8か月間にわたり、多様な講師・ゲストが登場します。ここに来れば、地域活動の全体像が一気にわかります。
- ②現場での実地体験がある！  
座学だけではなく、すでに地域で活動している団体さんの現場に行き、活動を体験することができます。「まずやってみる」に取り組みチャンスです。
- ③橋のつながりがある！  
いざ自分が活動を始めるとき、大切なのは仲間。本塾修了後も、連携したり、助まったり、時には一緒に活動できる仲間がきっと見つかります。他者との対話の中から、自分のやりたいことも見つかるかも。

#### 昨年度受講生の声

講義や他の塾生との対話の中で、会社員時代の価値観が少しずつ変わって行くのを実感しました。(60代・男性)

人生100年時代へ向け、やらなければならないことは沢山ある。活躍塾は明白への第一歩です。(70代・女性)

自分の好きな事からでも良い活動が、自分の楽しさやhappyにつながる。(40代・女性)

思いを行動に、走り出す勇気になりました！(20代・男性)



単元	日時	テーマ	講師・ゲスト	会場
①	7/6(金) 13:00~15:45入塾式 16:00~15:00公開講座	地域社会の変化と市民主体のコミュニティ活動 →市民の力でまちをより良くする活動の事例紹介	高橋誠司(松戸市副市長) 柳本大祐(松戸市副市長)	松戸市民センター
②	7/13(金) 13:30~16:30	地域で活躍するはじめの一歩 →松戸の地域から地域活動を知る	講師：日下昌弘(松戸市副市長)	松戸市民センター
③	7/20(金) 14:00~16:30	先物に聞く！ はじめたきっかけから活動を楽しむポイント	ゲスト： ・丹保 孝良 (NPO法人アクトアップ 代表理事) ・藤田 隆夫 (松戸市市民センター 副センター長) ・山本 隆夫 (松戸市市民センター 副センター長) ・中野 正博 (まつど地域活躍塾 塾生)	松戸市民センター
④	7/27(金) 14:00~16:30	地域に密着した活動で 仲間を巻き込みたい	講師：松戸市 豊田 隆雄 (福祉課長) 山本 隆夫 (松戸市市民センター 副センター長)	松戸市民センター
⑤	8/3(金) 13:30~16:30	市民の思いと地域をつなぐ コーディネーターの役割	講師：日下 昌弘(松戸市副市長) 松戸市市民センター 副センター長	まつど地域活動サポートセンター
⑥	8/10(金) 14:00~16:30	子どもの権利・社会的自立に向けた 変える地域のはたらき	講師：必野 正志(松戸市副市長) 必野 正志(松戸市副市長) 必野 正志(松戸市副市長) ゲスト：高橋 誠司(松戸市副市長) 必野 正志(松戸市副市長)	松戸市民センター
⑦	8/24(金) 13:30~16:30	地域課題って何？ 調べる方法と必要な社会や民生委員の活動	講師：日下 昌弘(松戸市副市長) 高橋 誠司(松戸市副市長) ゲスト：高橋 誠司(松戸市副市長) 高橋 誠司(松戸市副市長)	松戸市民センター
⑧	8/31(金) 13:30~16:30	調べる方法を考えるワークショップA 「シニアが活躍して、いつまでも元気に暮らせるまちづくり」(2階でセッション)	講師：必野 正志(松戸市副市長) 高橋 誠司(松戸市副市長)	松戸市民センター
⑨	9/7(金) 14:00~16:30	調べる方法を考えるワークショップB 「高齢者の生き生きとした活躍」(2階でセッション)	講師：松戸市 佐藤 隆雄(福祉課長)	松戸市民センター
⑩	9/28(金) 14:00~16:30	調べる方法を考えるワークショップC 「高齢者の生き生きとした活躍」(2階でセッション)	講師：松戸市 佐藤 隆雄(福祉課長)	松戸市民センター
⑪	10/5(金) 13:30~16:30	調べる方法を考えるワークショップD 「高齢者の生き生きとした活躍」(2階でセッション)	講師：松戸市 佐藤 隆雄(福祉課長)	松戸市民センター
⑫	10/14(日) 10:00~16:30 懇話会	実地体験オリエンテーションへ参加し、松戸市とのマッチングの会へ		まつど地域活動サポートセンター
⑬	10/14(日) 10:00~16:30 懇話会	20団体の懇話会から選べる「実地体験」(松戸市市民センター)		松戸市民センター
⑭	12/16(日) 14:00~16:30	実地体験ふりかえりの会＆報告会		松戸市民センター
⑮	2019/1/11(金) 14:00~16:30	修了後の活動につなげる「ふりかえりワークショップ」		松戸市民センター
⑯	1/25(金) 14:00~16:30	修了後の活動につなげる「個別相談会」		松戸市民センター
⑰	2/15(金) 14:00~16:30	修了式(修了証授与)		松戸市民センター

#### 実施会場

原則、新松戸市民活動支援コーナー(新松戸市民センター3階)で実施します。  
ただし、3/16 43 松戸市民劇場、3/28 43 松戸14 松戸市民活動サポートセンターで実施。

#### 実地体験先の主な分野

地域福祉、地域の見守り活動、助け合い活動、高齢者、障がい者、子ども・子育て、社会教育、観光、環境保全、外国人、防災、自治会、中間支援

実地体験は、主に上記の分野で活動している地域活動団体から選びます。  
具体的な活動内容は、市のホームページにて案内いたします。

#### 募集要項・応募方法

【対象者】松戸市に在住、互感、在学する18歳以上の方で、これら地域で活動する意思のある方。  
現在活動中であるスタッフアップを優先させていただきます。

【定員】40名

【受講料】5,000円(松戸市助成金2,000円、受講料の払戻はできません。)

【受講期間】平成30年7月から平成31年2月まで

【会場】新松戸市民活動支援コーナー(新松戸市民センター3階)、他

【申込期間】平成30年4月16日(月曜)から6月15日(金曜) (必着)

【必要書類】下記①及び②を松戸市役所市民生活課へ郵送、電子メール、または直接持参してください。

- 申込書(今までの活動履歴も記載)
- レポート「まつど地域活躍塾で学び、実践したいこと」(800字程度)

申込書は必ず1シート提出し、お申し込みの受付は、お申し込みフォームから受付となります。  
申込書は必ず1シート提出し、お申し込みの受付は、お申し込みフォームから受付となります。



#### よくあるご質問

Q どうしてもお休ましてしまう日程があるのですが、参加可能でしょうか？  
A 可能です。事前に、すべての日程への参加が可能なことをお断りしていただくか、青紙、下取りの「休む日」を指定してお知らせをお願いします。

Q これまで、どのような方が参加していましたか？  
A 社会人、これまで全く活動の経験がなかった方から、地域活動の経験が豊富で、すでに活動している方まで、様々な方が参加しています。また、お申し込みの年齢も、10代から80代まで幅広い方が参加しています。

Q カリキュラム修了後のフォロー体制はどのようになっていますか？  
A 第1講義以降、塾生もつながりを持ち、情報交換をしながらそれぞれの活動を応援します。その際、必要に応じて個別に、必要に応じて松戸市市民活動サポートセンターに相談いただけます。その他、ご希望があれば、市民生活課までお問い合わせください。

#### 修了要件

本塾修了には下記の要件を満たす必要があります。

1. 講義 受講 受講料の支払い、3年以上受講している。
2. ワークショップ ①-④の「ワークショップ」もしくは⑤の「ワークショップ」に参加している。
3. 実地体験 ①-④の「実地体験」もしくは⑤の「実地体験」に参加している。
4. 申込書 ①-④の「申込書」もしくは⑤の「申込書」を提出している。

#### お問合せ、詳細は6通りの中から

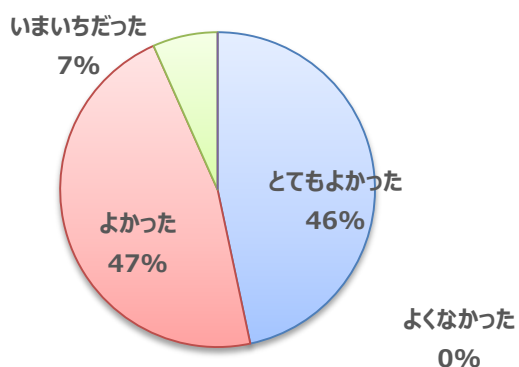
①電話 松戸市市民生活課 027-356-1100(受付時間 9:00~17:00)  
②メール mchikawa@city.matsuyama.lg.jp  
③FAX 027-356-4030  
④ホームページ 松戸市ホームページ(松戸市市民生活課)からお問い合わせください。

主催：松戸市 企画・運営：NPO法人まつどNPO協議会

## 資料編

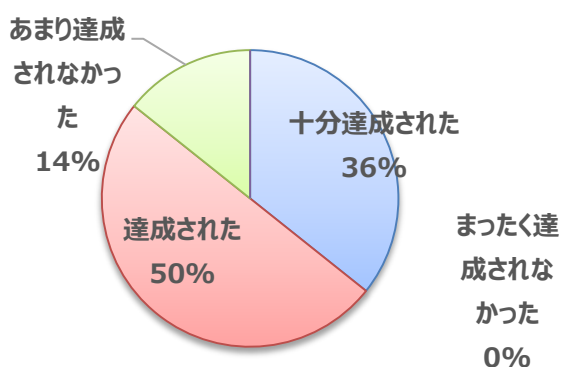
### <2月15日実施アンケート結果>

#### 本塾全体の満足度はいかがでしたか？



- 松戸市で活躍している団体の活動を体験することができた。
- 参加した皆さんとの、運営された皆さんとの、行政とのネットワークができた。
- 活躍塾での活動が終わった今、自分のやりたいことが自分で認識でき、今やっていることにも意味を感じることができるようになった。
- 塾生一人一人の想いがすこしずつわかってきて、大変勉強になりました。

#### 本塾申込時に期待していたことや目的としていたことは、達成されましたか？



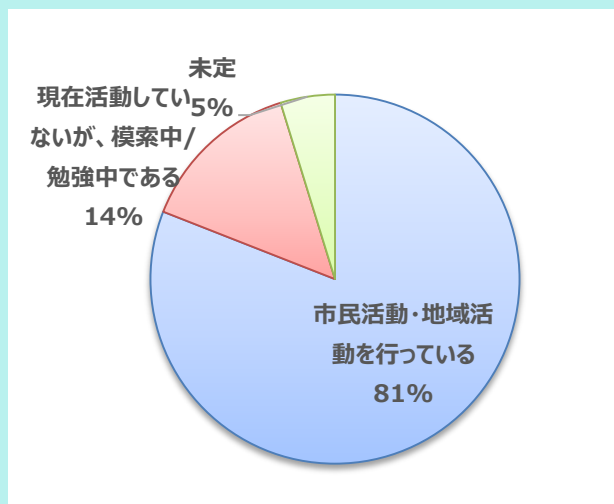
- 松戸・地域でこれからも頑張っていこうというエネルギーをもらった。
- 目標が定まっていなかったが、具体的に課題が見えた。
- 達成されたこと：実地体験に行きってヒントをもらった。
- 達成されなかったこと：自分の済地域でのプレーヤーが見つからなかった。



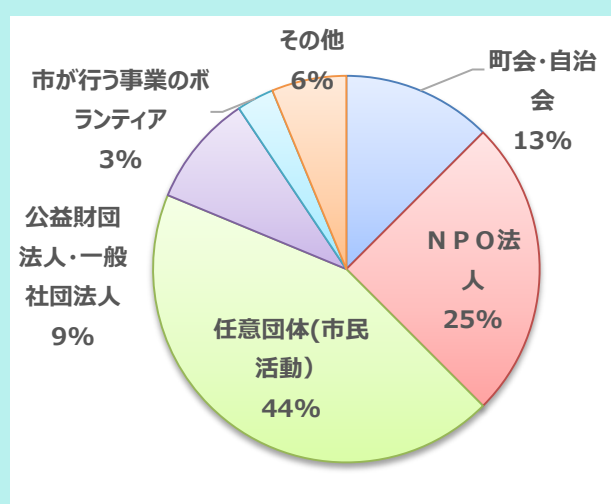
## 資料編

<まつど地域活躍塾修了後 活動状況調査結果（令和元年6月実施）>

### 修了式(平成31年2月)以降、市民活動・地域活動を行っていますか？



### 活動を行っている方の活動先 (複数回答あり)



まつど地域活躍塾を受講したなかで、今までの活動のステップアップになった部分など。

- 子ども食堂への実習は、現場での体験を通じて多くの学びがあった。
- 1人で新しいことをやるのは大変なので、同じビジョンを持った受講生が協力して新たに始めるよい機会になった。
- 特に知りたかった自分の仕事に関わるだけでなく、広く様々な分野のことについて学んだり考えたりすることができたこと、たくさんの方と知り合えたことは、講座修了後の活動にとっても影響している。
- 空き家問題や民生委員の活動内容、モデル町内会の活動の情報共有が大変役に立った。

このような講義内容があったら効果的であると感じた部分など。

- 最後に志を同じくする修了生同志の話し合いの場があったらよい。
- 体験型学習やアクティブラーニング等、体や五感を通じて学びを深めるプログラムがあるとより良い。
- 松戸市の行政が活発化した事例紹介、他の都市の活動団体との協力体制、の内容があればより効果的であったと思う。
- 団体を立ち上げたい人に対しては、プランを練り上げるゼミ形式+場所を提供してくれる人とのマッチングが中心の方が良い。
- ボランティア活動に役立つ講習の紹介があるとよい。